



第50回長崎県新人演奏会記念事業プレイベント「輝ける星たちとNOCE室内楽コンサート」

今後、地域が取り組む地道な文化芸術活動や、地域で守るべき伝統芸能の継承などを後押しすることにより、「国民文化祭」に向けて本県の文化芸術を盛り上げてまいりますので、皆様方におかれましては、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

県といたしましては、令和7年度に開催が予定されている「国民文化祭・全国障害者芸術・文化祭」に向けた準備を進め、地元市町と一体となって、県民の皆様の機運醸成や受入体制の整備、文化団体の基盤強化などを図ることとしております。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、県内の多くの文化団体が活動の自粛を余儀なくされるなど、大きな影響を受けましたが、文化芸術には、県民の皆様の生活に潤いをもたらす、豊かな人間性を養うとともに、地域の魅力を磨き、交流を促進する大きな力があることを、改めて認識したところであります。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、県内の多くの文化団体が活動の自粛を余儀なくされるなど、大きな影響を受けましたが、文化芸術には、県民の皆様の生活に潤いをもたらす、豊かな人間性を養うとともに、地域の魅力を磨き、交流を促進する大きな力があることを、改めて認識したところであります。

会長あいさつ



長崎県文化団体協議会 会長
長崎県知事
大石 賢 吾

「国民文化祭」を、次の世代への「新たなトビラ」にするために！

もう2年以上も、「コロナ禍」の生活が、社会に大きな影響を与えています。私達の文化活動も、様々な形で制約を余儀なくされており、活動自体の自粛、発表会、各種イベントの中止も相次ぎました。その中止の理由も、主催者の判断によるものと、会場となる会館（ホール）自体が、閉館（休館）となったため、否応なしに中止になったイベントも、少なからずあります。公共施設で、「まん延防止措置」などによって「休館」になるかどうかは、全国の自治体でも差があり、長崎県内の市や町でも対応は様々です。この2年間、私自身も、幾つかのイベント等に関わり、施設ごとの「対応の違い」に苦慮することがありました。1日も早くコロナが収束して、安心して、稽古も、イベントも、普通にできるようになってほしいものです。

今、長崎市は、100年に1度とも言われるほど、市街地の景観が大きく変わろうとしています。特に、長崎駅周辺は、その変わりように、市民でさえも目を見張るほどです。地域を代表する公共施設の県庁が移転し、まもなく市役所も移転します。この大きな街の「変化」の中で、文化団体の立場からは、色々な期待と困惑の声が聞こえてきます。「県庁跡地や市役所跡地は、文化的にはどう活用されるのだろうか！」「これまで練習会場として利用してきた施設が使えなくなつて困っている！」（今、長崎市は、練習会場が足りない！）

今後の「街づくり」の中の「文化」のあり様については、すでに、県、長崎市の審議会（検討会）などで論議されているようですが、大きな街の景観の変化の中で、そこで、伝統や文化を担っている「町の人々」の役割（存在）が、しっかりと認識されることを願っています。

その大きな「変化」の中で、3年後の2025年、長崎県内で「国民文化祭」が開催されます。まだ、だいたい先だと思っていきましたが、そう時間的余裕はないですね。国民文化祭は、県下の市や町、県内の

多くの文化団体と全国の文化団体が、様々な形で参加し、交流する文化の祭典で、今年から本格的に準備、活動が始まります。国民文化祭は、各県持ち回りなので、開催県の「特色」（伝統）を、どう表現し、それを、どう次に「継承」するかが、これまでも大きなテーマになっていきます。長崎には、長崎らしい、長崎ならではの、「伝統」「文化」が沢山あります。これを、「国民文化祭」を契機に、しっかりと「再確認」し、それを、次の世代に「継承」する。「国民文化祭」を、「過性の「お祭り」に終わらせず、地域の「文化」活動の活性化と、次に続く若い世代への「継承」の「大きな扉」にすることこそが、「国民文化祭」の最も大切な開催意義だと思います！

コロナの状況も、まだまだ予測を許しません、まさに、若い世代の新しい知事とも、情報を共有し、理解を頂きながら、今できることを一工夫積み重ねて、着実に準備を進めたいものです。「文化の長崎の未来のために！」



長崎県文化団体協議会
副会長
河野 英雄



国文祭・芸文祭みやざき2020開会式



国文祭・芸文祭みやざき2020総合フェスティバル

令和3年度 活動報告

令和3年

- 6月 8日 委員会、総会（県庁及びオンライン）
- 6月13日 第48回長崎県新人演奏会
- 11月19日 輝ける星たちとNOCE室内楽コンサート
- 11月27日 Museum Concert2021

令和4年

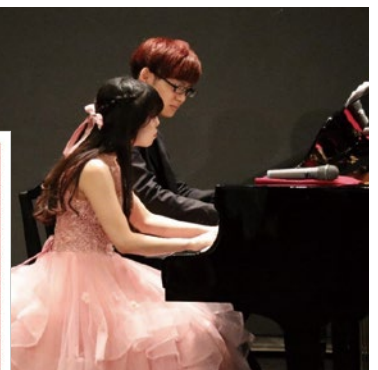
- 1月 7日～30日 第17回長崎県選抜作家美術展
長崎会場、佐世保会場、平戸会場
- 3月12日～13日 第49回長崎県新人演奏会
オーディション



第48回長崎県新人演奏会



輝ける星たちと
NOCE室内楽コンサート



Museum Concert2021



第17回長崎県選抜作家美術展



第49回長崎県新人演奏会オーディション

長崎県新人演奏会 50周年に向けて

長崎県合唱連盟顧問
長崎県新人演奏会推進委員会委員長
松川 暢男

長崎県新人演奏会は、昨年度48回目を迎えました。出場者の累計は486名。内訳は声楽154名、ピアノ177名、ギターを含む弦楽器62名、管楽器88名、打楽器5名で、毎回約10名の出演です。いずれの会も若々しく頼もしい演奏が披露され、それは、演奏者相互にとつてもいい刺激となり、また、聴く人々にも感動を与え続けています。私は推進委員長としてオーディションから聴くようにしていますが、毎回、心踊る若々しい演奏に感動をいただいています。最近では、少子化の影響、音楽大学等の入学者減もあり、全体的な応募者数が減少傾向にあります。管楽器部門、打楽器部門では、参加者が増えています。

残念なことは、コロナ禍により一昨年来催予定だった第48回が中止となり、昨年オーディションではお互いの演奏を聴き合い、学び合うことができなかったことでした。

このオーディションや本番の演奏会は、入賞することだけが目的ではなく、お互いの演奏を聴き合い、刺激を受けながら、共に成長し合うことが長崎県の文化的財産となり、県民生活に潤いと

喜びを与えることが大きな目標です。一生を賭けて追究することが必要な音楽は、その歓びを通して音楽的に、芸術的に、そして一人の文化人として成長できる活動でございます。

ここ数年間はコロナ禍で、「自粛」せざるを得ない状況が続き、コンクールなどの審査でも、それぞれの県で素晴らしい演奏に感動しましたが、やはり声が伸び伸びと出なくなった団体も多く、この「自粛」生活の中で、「萎縮」さえ感じられたことは誠に残念なことでした。

さらに、「練習ができない」、「練習会場がない」、「練習会場がなくなってきた」ことは、憂慮する事です。例えば、「おかあさんコーラス」をみますと、全国的な大会につながる「全日本おかあさんコーラス大会」九州予選に県内から毎年14〜18団体の参加でしたが、コロナ禍後は僅か3団体の参加希望の状況で、それも「練習ができない」「練習会場がない」「コロナ感染が怖い」などで参加取り止めとなつてしまいました。以前のような状況には戻れることは、極めて困難さを実感しています。

このような時に「新人演奏会」に出演される方々には、今後への望みを託す

ことができる「希望の星」だと思います。コロナ禍で萎みそうになった音楽文化活動の活性化を図りながら、「ここに住んで良かった」と実感できる長崎県づくりを目指す必要を痛感します。

これまでの出演者の中には、県内だけでなく、国内外でも活躍されている方々も多く、勇気をいただいています。これからも「音楽をやつてきて、良かった」という喜びと共に感謝を胸に刻みながら、地域の中で存在感ある活動を積み上げてほしいものです。

以前、長崎純心大学・現代福祉学科教授だった近藤原理先生が、さりげなく話されていた「人間的なおおらかさと、専門的な細やかさと、社会的には厳しさを！」というお言葉が浮かびます。音楽的ご活躍と共に、一人の社会人としても敬愛される方々が一人でも多くなることを望んで止みません。

この演奏会を楽しみにして、支えてくださる方々、文化活動の発展に力注いでくださる方々も多くいらっしゃると思います。そういう方々と共に、音楽することの喜びと、共に感じ合える嬉しさの輪が広がっていきますように！



長崎県の優れた演奏家の育成を図るとともに、本県の音楽文化の向上を目指して長崎県新人演奏会を開催しています。

6部門（声楽・ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・打楽器）のオーディションを行い、選出された10名程度で6月に演奏会を行っています。

令和5年度に記念すべき50回を迎えることから、大村市を拠点に活動されるプロオーケストラの長崎 OMURA 室内合奏団と連携し、記念事業を実施していきます。

第17回 長崎県選抜作家美術展

【会場・日程】◎長崎会場:長崎県美術館 県民ギャラリー [期間] 令和4年1月7日(金)～16日(日)
 ◎佐世保会場:佐世保市博物館島瀬美術センター [期間] 令和4年1月19日(水)～23日(日)
 ◎平戸会場:平戸市中部ふれあいセンター [期間] 令和4年1月26日(水)～30日(日)

【主催】長崎県、長崎県文化団体協議会、長崎県美術協会

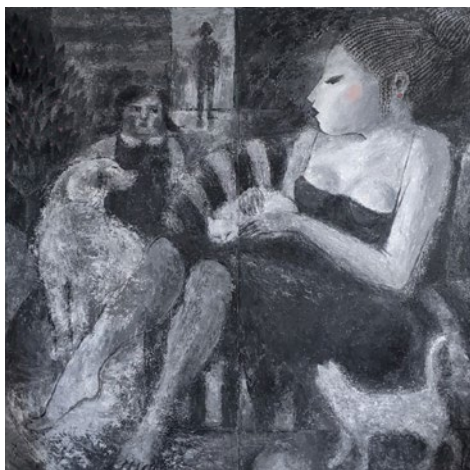
【部門】洋画、書、工芸、日本画、彫刻の5部門

【展示作品数】長崎会場181点、佐世保会場92点、平戸会場86点

【観覧者数】長崎会場1,690名、佐世保会場312名、平戸会場209名 計2,211名



(書)「翰墨游戲」岩永 宗仙



(洋画)「イトシキモノたちへ」福島 由紀夫



(工芸)「地球温暖化」森川 末之



(彫刻)「季節を纏う～八十八夜～」馬場 正邦



(日本画)「待機」松竹 幸子

長崎県選抜作家美術展は、昭和17年度長崎県文化団体協議会創設20周年記念事業として、洋画と書の2部門からなる「長崎県現代作家美術展」として誕生しました。その後部門を増やし、平成17年度から「長崎県委嘱作家美術展」、平成23年度より「長崎県選抜作家美術展」と改称し今回で17回目となります。本県を代表する優れた作家の作品を一同に展示する県内最高峰の美術展であり、平成17年の長崎県美術館開館を機に県内最

大の公募展である県展と連携し、本県の芸術文化の振興を図ってきました。

昨年度に引き続きコロナ禍での開催となりましたが、各会場での感染予防対策徹底のもと、創造性に溢れた魅力ある作品に触れた人々の心を潤す機会となりました。

今後多くの方に親しまれる展覧会になるよう努めてまいりますので、お力添えいただきますようお願いいたします。



長崎 交響楽団

長崎交響楽団

事務局長 宮西 隆幸

長崎交響楽団（長響）は、令和二年七月に設立五十周年を迎えることができました。

【主たる記念事業】として、同年七月に計画していた記念演奏会は、新型コロナウイルス感染症拡大の第二波と重なり、令和三年に延期して開催となりました。プログラムも練り直し、規模を縮小して再出発しました。

しかし、翌年明け以降も練習の中断が続き、開催が危ぶまれました。最後まで難しい判断が続きましたが、団員の記念演奏会に対する一致した思いもあり、令和三年七月十一日に開催することができました。メインはドヴォルザーク作曲交響曲第九番「新世界より」で、会場での感染対策にご協力頂いた六百五十名のお客様からは、大きな拍手やたくさんのお客様のお言葉も頂戴し、長響五十周年をお客様と同じ空間で祝うことができたと思えました。このように困難を乗り越え開催できましたこと、皆様の応援とご協力に感謝いたします。

【地域の音楽団体との交流事業】として、同年十月十日には、ジュニア、高等学校、そして社会人の音楽団体と連携した演奏会を計画していましたが、感染拡大第五波の影響で練習ができなくなり、演奏会開催を断念しました。その際、お願いしていた指揮者の先生からの「あきらめない思いを残しましょう」という声を受けて、参加者数も限られた数少ない練習でしたが、最後に

記念の演奏録音を行い、非公開ながら音楽交流を行いました。

【長崎開港四百五十周年記念事業】

長響の設立が長崎開港四百年の記念事業の一つであったご縁で、令和三年四月二十七日に長崎開港四百五十周年記念式典で記念演奏する機会をいただきました。長崎に因んだ楽曲数曲をつないだオリジナル編曲作品を小編成の奏者十三名で生演奏し、記念映像と組み合わせたマルチメディア形式の新しい試みでした。式典は感染予防のため非公開での実施となりましたが、演奏と映像の様子は式典会場からライブ配信されました。

【長響の特色】として、挙げるとすれば、「オペラ演奏」と「音楽による国際交流」です。長崎を舞台としたプッチーニ作曲の名作オペラ「蝶々夫人」を、昭和五十七年に長崎県オペラ協会と一緒に全幕演奏を長崎で初めて行い、以降も優れた指導者、そして支援者に恵まれて、何度か全幕公演に参加し、オペラ演奏ができる市民オーケストラへと脱皮しました。おかげ様でアンサンブル技術と音楽的表現力の向上につながったと感じています。

また、長崎市と米国セントポール市は、一九五五年に日米姉妹都市第一号となりましたが、一九九五年に四十周年を祝い、初の海外公演として長響が同市を訪問したことが、セントポール市民交響楽団との姉妹オーケストラ提携につながり、たびたび交流演奏会を開

催して音楽を通じた国際交流を試みてきました。

一方、県内離島や遠隔地を訪問する巡回演奏会、長崎県障害者芸術祭の「第九」演奏、トヨタコミュニケーションコンサート、九電シティコンサート等メセナ活動にも協力し、青少年の演奏会無料招待、市民参加の体験型ワークショップ「オーケストラ入門」、小学校への室内楽の出演演奏等も積極的に行ってきました。

長響は、これからも、楽団員一人ひとりが自己研鑽に努め、その成り立ちと足跡を理解し、地域と連携し、音楽を通じて社会貢献をしていきたいと考えます。





長崎県 合唱連盟

長崎県合唱連盟

事務局長 草野 美穂

令和三年度も、新型コロナウイルスの影響により、今まで当たり前前にできていたことが当たり前ではない状況が続いています。そのような中、合唱に携わる私たちにとって、「歌を歌う」とことは何かと自ら問いかける日々が続いています。

令和二年度は、合唱祭・コンクール県大会をはじめほぼ全ての行事を中止いたしました。しかし、令和三年度は、コロナと向き合い正しく畏れながら、行政が行う情報発信や他団体の実施状況等を参考にし、歌い手や観客の方が安心・安全に歌うことと聴くことができることを考えました。また、加盟団体の方の合唱への熱い想いをかなえるべく、理事会などで各事業の実施について何度も話し合いを重ね、そして合唱の灯をともし続けていくことを模索しています。

合唱連盟の事業は大きく分けて二つに分かれます。一つは、合唱祭をはじめとする、それぞれの団が練習の成果を発表し合うための行事です。もう一つは、コンクールやアンサンブルフェスティバルなどの競い合う行事です。どちらも、「音楽」と「ことば」を深く追求するということには変わりはありません。

今年度はまず七月のコンクールを開催しました。これは、上位大会を目標に日々努力を重ねる学生団体の想い全てが詰まったステージです。舞台上の距離、観客数の制限等考えられ

る方策を役員で出し合い、出場者がベストを尽くすことができるために前日のホール開館時間ぎりぎりまで準備に追われました。当日の各団体の演奏は二年分の気持ちがいもった素晴らしいものでした。終了後に涙する児童・生徒たちの姿を見て、スタッフも感極まる場面が見られました。そして、例年十二月に行っていたアンサンブルフェスティバルを、延期した合唱祭と一月に同日開催いたしました。合唱連盟の一般加盟団体のほとんどはコンクールに出場していないため、合唱祭のステージが二年ぶりという団体も多くありました。演奏では各団体が工夫を凝らし、歌だけでなくパフォーマンス、特におかあさん団体の衣装とパフォーマンス!!には目を見張るものがあります。合唱祭はジュニアから一般までが出演しますので、選曲も多様で児童合唱や男声合唱など普段あまり聴く機会がないジャンルも登場します。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、前後半の入替とし全ての団体を聴くことは出来ませんでした。それぞれの合唱団の熱気を感じることができました。

各事業は、新型コロナウイルスの感染もなく無事に終了することができましたが、観客数制限と合唱への風当たりが強さから、赤字が拡大しています。しかし、文団協様の助成金をいただくことができたので、どうにかやりくりできている状況です。本当にあり



がとうございました。

歌は「歌詞」を持つ音楽であり、その「ことば」を伝えることができる音楽です。冒頭の問いかけの答えは一つではありませんが、今こそ「音楽の力」「歌うことの意味」を各団体が模索し、それを連盟としてサポートできるようにと考えています。そして今年度こそ多くの方々に聴いていただける機会が増えることを皆様とともに祈りたいと思います。今後とも連盟への御支援をどうぞよろしくお願いいたします。

長崎県 地域文化章

県では、県内各地において地道な文化活動を続け、地域文化の向上と発展に貢献している個人及び団体に対し長崎県地域文化章を贈り、その活動と業績を顕彰しています。

第36回は、岩崎 政利氏（雲仙市）、ジュニアオーケストラながさき（長与町）、吉村 政徳氏（新上五島町）の1団体、2個人が受章しました。

島を元気に

「神楽とうどんの文化活動、
そして人生の学び直しも」

上五島神楽保存会会長
上五島歴史と文化の会会長

吉村 政徳

今まで地道に積み重ねてきた私の五島の文化活動は、主に次の三つの活動です。

まず一つは「五島神楽」の発展です。平成12年に帰郷してすぐ着手したのが、五島列島に7つある神楽団体の組織化とその振興策でした。手始めは各神楽団体に保存会の組織を立上げてもらうこと。そして毎年、七つの神楽保存会が集まって、ワザの向上や神楽の歴史文化学習のための研修会を実施し、休眠状態の神楽復活、途絶えた舞の再生などを鋭意努力して活性化を図りました。結果、幸いにも平成14年に「国選択無形民俗文化財」の認定を受けたのです。これで私が目指した最初のハードルをクリアすることが出来ました。そして保存会活動が少しずつ活発化されていくことを維持しつつ、五島神楽を学術的に体系化した研究書の発刊も企画し、400ページの大著『五島神楽の研究』を刊行することができました。連絡会も「五島神楽連合会」に発展改称し、お陰で期は熟し、高いハードルであった「国指定の重要無形民俗文化財」の認定を平成28年に頂くことが出来ました。このことは大きな喜びと共にこれ以上ない達成感を味わうことが出来ました。

二つ目は、今まで体系的に纏められたものが無かった「五島うどん」の歴史と文化についてです。今回、一冊の本にまとめ地元長崎新聞社から『五島うどんの御力（みりよく）〜日本最古説を追って〜』と題する初の専門書を上梓刊行し、五島うどんが日本のうどん発祥という説を地元は元より全国にも発信して、地元に対するささやかな文化的後方支援をしたことです。本の出版の影響かどうかは不確かですが、今までにない五島うどんの歴史文化への関心は高まりを見せ、地元高校生の学習発表会などには、必ず「五島うどん」が研究素材に選ばれている現状は、うどん文化の新たな好展開となっております。

三つ目は、島の「文化力向上」のため、史談会的組織を「上五島歴史と文化の会」の名称で立上げ、年間6回ほどの定期講座を開設しながら、史跡ウォーク、史跡探訪などを実施して昨年で20年目を迎えました。会員は70人程度ですが、この会が島の人びとに長く支持されているのは、会員をはじめ文化講座に参加される方々が、人生の「学び直しの楽しさ」を感じながら参加していることにあるように、子どもたちの遊びに夢中になった分、大人になって純粋な復習や新鮮な学びの意欲に繋がっているのは事実で、本会の

活動が豊かな人生の生き方のささやかな一助になっているのではないかと思っています。「学習は人生最高の知的レクリエーション」を合言葉に、また「し続けられ本物になる。本物は残る。」を会のモットーに掲げ、10年区切りの講座での発表要旨を記念誌に編み、いま第二輯を編集中です。専門書も3冊刊行することが出来ました。この会は小なりと云えども、微力ながら島の「文化力向上」に資しているのかも知れません。

これら三つの文化活動は、私のライフワークでもありますので、これからも地道な努力を重ねていきますが、今後は、後継者育成に軸を移行しなければと思っています。「神楽」「うどん」「地域の文化力」の本物を残していくためにも、不易流行を基にして次代にバトンを「伝え繋ぐ」役目を自覚して、その責任を果たしていきたいと思っています。



以前は市町等の推薦のみでしたが、第36回からは、地域資源の更なる掘り起こしを進めていくため、自薦も含め広く候補者を募集しています。募集は、例年11月頃です。

九州芸術祭文学賞

九州芸術祭文学賞は、(公財)九州文化協会、九州・沖縄の8県、3政令指定都市の主催で、九州在住者を対象に小説作品の募集を行い、優れた作品と埋もれた人材を発掘・育成し、九州全域の文学活動の振興を図ることを目的に開催されています。第52回となる今回は、269編の応募がありました。

今年1月、作家 五木寛之、作家 村田喜代子、作家 又吉栄喜、「文藝界」編集長 丹羽健介の4氏によって最終選考が行われ、長崎県地区選考会で地区優秀作となった白石昇氏の「足の間」が、最優秀作に選ばれました。本県の方が最優秀作を受賞するのは、平成25年度の第44回以来のことです。今回、最優秀作を受賞した白石氏に寄稿いただきました。

九州伝統文化の継承者として

白石昇

白石昇といいます。このたび九州芸術祭文学賞最優秀作品に選ばれました。下の名前だけでも覚えてあげてください。お気軽にのぼるちゃんと呼んでいただけるとうれしいです。本人もそうしています。

さて、九州芸術祭文学賞とはわかりやすく言うと九州作文選手権大会です。九州に住んでいれば誰でも出場できます。今年、その優勝者に選ばれたということです。

それでのぼるちゃんがどんな作文でチャンピオンになったかという二十歳くらいのキャバクラ嬢目の文章です。

五十二歳のおっさんが二十歳のキャバクラ嬢目線で作文を書いたわけです。ああでもないこうでもないという原稿用紙六十枚も。とんだなりすまし詐欺です。一歩間違えたらド変態です。

ド変態かどうかは客観的な判断に委ねるとして特に否定はしませんが、男性が女性目線で表現するのは九州の文化的伝統です。そこは否定できません。九州が生んだ表現者たちは通過儀礼のように女性目線で言葉を発してきました。

鹿児島島の長洲剛はいままでたつても恋の矢が刺さらないみたいですし、我が長崎ではさだまさしが明日嫁ぐ娘としてありがとうの言葉をかみしめます。福岡に至っては井上陽水が飾りじゃないのよ涙とは言い出す始末ですha han。

あ、福岡といえば今回ののぼるちゃんの作文を選んでくださった五木寛之さんだって過去に女とか松坂慶子を通り越した上で水中花目線になってます。でもそれもとぶん愛ですきつと愛。

例を上げればキリがありませんが、一番影響を受けた九州の女性目線表現者といえばなんとと言っても熊本のおぼろけ川です。幼い頃にテレビで強烈に刷り込まれたお米ばあさんは今も身体のどこかに染み付いて消えることはありません。これからもびら〜と洗脳されたままです死ぬまでずっと。

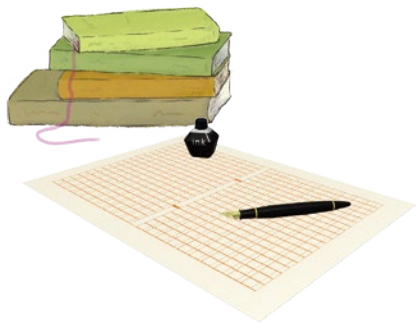
そんな九州の伝統文化を一身に背負った令和三年度九州場所優勝文士ののぼるちゃんのこれからの取組なのですが、できればキャバクラ嬢のまま腐女子になりたいです。そうです今ものすごい盛り上がりを見せているタイBLドラマ原作小説の翻訳がしたいのです。

実はのぼるちゃんは数少ないタイ日文芸翻訳者のはしくれなのです。おとし九州に引っ越してくる前まではメコン川をはさんでラオスとミャンマー国境近くに位置するタイ国の僻地に一年半程おりました。そこで毎日ナマズや昆虫を食しながらひたすらタイ語を読んで日本語に訳しておりました。一年間に二冊の訳書をリリースした実績がございます。なのでお仕事が終わって帰る可能性がないこともないのです。

なにしろキャバクラ嬢として九州王者になったのですからこれはもう九州ナンバーワンキャバ嬢を名乗ってもいいと思っています。できることならタイBL沼に沈んでらっしゃる

素敵な読者様方に必要とされる翻訳作品をものにした

いのです。翻訳なので権利問題など難しい部分もありますが、スキあらば勇敢に沼に飛び込み、九州ナンバーワンキャバ嬢の実力を日本全国のタイBL沼の皆様に見せつけてやるつもりです。



九州芸術祭文学賞は、九州・沖縄の在住者であれば、どなたでも応募できます。応募作品は未発表作で、400字詰め原稿用紙55枚〜60枚以内。応募要項は県のホームページにも掲載します。例年のスケジュールは、8月末が提出期限（長崎県在住者は長崎県へ提出）です。小説を書かれている方は、ぜひご応募ください。

長崎県からのお知らせ

「令和7年度国民文化祭及び全国障害者芸術・文化祭に向けて」

令和3年7月、文化庁から令和7年度国民文化祭の長崎県開催の内定をいただきました。国民文化祭は、国内最大の文化芸術イベントであり、開会式に天皇陛下がご出席される「四大行幸啓」の1つです。

令和7年度は、被爆80年、長崎県美術館及び長崎歴史文化博物館開館20周年、長崎空港開港50周年、中華人民共和国駐長崎総領事館開設40周年など、本県にとって節目の年を迎えます。また今後、西九州新幹線や長崎スタジアムシティの開業など、長崎の街が大きく変わろうとしています。このような中、県民の皆様と一緒に、文化芸術を通じたまちづくりを進めて、国内外から多くの方々をお迎えしたいと考えております。

既に、開催の意義や基本方針などをお示しする「基本構想」の素案の策定に向け、文化芸術、平和・国際交流、観光、障害者芸術、教育、経済、マス

コミなど関係分野の有識者による第1回目の有識者会議を開催し、「本県の海外交流の歴史」「SDGsの視点」「観光・インバウンドにつなげる取組」「若者の参画」「平和の継承」など、さまざまな視点から貴重なご意見をいただきました。今後、市町や関係団体等からなる県実行委員会を立ち上げ、基本構想案の承認をいただく予定としております。

国民文化祭は、地域の特色ある文化芸術活動を更に活発化するとともに、古くから日本の海外交流の窓口であり、西洋と東洋が融合した独自の文化を育んできた本県ならではの文化芸術の魅力を全国に向けて発信することにより、地域の魅力の再発見による観光振興やまちづくりの大きな契機になると考えております。

また、全国障害者芸術・文化祭も同時開催となります。本県では、障害の有無にかかわらず、誰もが社会を構成する一員として、共に地域を支え合い、あらゆる社会活動に参加することができる平和な共生社会の実現を目指しており、文化芸術を通じた心のバリアフリーの推進にもつなげてまいります。

今後は、地域の歴史や文化を皆様方と一緒に顕在化し、国民文化祭後もしっかりとレガシーを残して継続していくことができるよう取組を進めてまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



今年初開催したダンスイベント
「国民文化祭内定記念「Nagasaki Dance Meeting LIVE」



紀の国わかやま文化祭2021「小倉百人一首競技かるた全国大会」長崎県チームも出場しました

テクテクテクネー：技法でひらく想像世界

2022年4月9日(土)～6月5日(日)

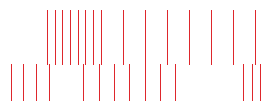
この作品は何を使って、どのようにできているのだろう—芸術作品の制作に用いられた素材や技術を知ることは鑑賞体験にさらなる深みをもたらします。本展では 古今東西のアーティストが手掛けた、絵画・版画・写真・彫刻など多様なジャンルの作品群を展示。制作の過程や技法に焦点を当て、各作品を形づくる表現の特質に迫ります。



児島善三郎《ミモザその他》
1957年
油彩・カンヴァス 91.2×73.1cm
久留米市美術館蔵



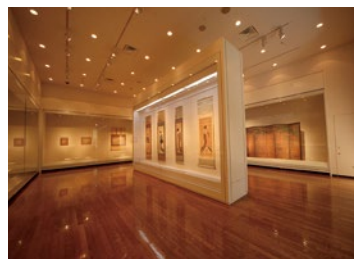
上田宇三郎《水》
1963年
紙本彩色 117.3×86.5cm
福岡市美術館蔵

 **長崎県美術館**
長崎県長崎市出島町2番1号 〒850-0862
Tel:095-833-2110 www.nagasaki-museum.jp

長崎歴史文化博物館

長崎歴史文化博物館は、江戸時代から近代にかけての海外交流に関する資料を扱う博物館です。ここはかつて「長崎奉行所」があった場所で、敷地内にはその一部が復元されています。常設の特集展示室では、季節毎に様々なテーマで収蔵品を紹介します。

2022年度 特集展示スケジュール



Nagasaki カリグラフィー…… 4月20日(水)～6月19日(日)
ながさきの夏…………… 6月22日(水)～8月21日(日)
くんち三八八年展…………… 8月24日(水)～10月16日(日)
唐寺の名宝…………… 10月19日(水)～12月18日(日)
新年を寿ぐ…………… 12月21日(水)～2月19日(日)
春うららⅡ…………… 2月22日(水)～4月16日(日)



所在地 / 〒850-0007長崎市立山1-1-1
電 話 / 095-818-8366
公式HP / <http://www.nmhc.jp/>
休館日 / 毎月第1・3月曜日
開館時間 / [4月～11月] 8:30～19:00
[12月～3月] 8:30～18:00
※最終入館30分前迄



長崎歴史文化博物館
Nagasaki Museum of History and Culture



アルカス SASEBO 音楽アウトリーチ事業「演奏家がやってくる！」 第3期生演奏家募集

アルカスSASEBOでは2016年より小学4年生を対象に生の音楽を届ける活動「音楽アウトリーチ事業『演奏家がやってくる!』」をスタートしました。これまでに4組7名の演奏家と共に佐世保市内の小学校の音楽室を訪れ、約2,200名の子どもたちに音楽の楽しさ・素晴らしさを伝えてきました。現在、2023年度～2024年度に演奏家として活動を行う第3期生の募集を行っています。

書類および実技審査に合格した方は、専門家による研修を受けながらアウトリーチプログラム作りに取り組んでいただきます。演奏活動のステップアップとして、アウトリーチのスキルアップとして、この事業を通じて様々なノウハウを身に付けてみませんか? 興味のある演奏家のご応募をお待ちしています!



対 象 長崎県出身・在住、または長崎県内で演奏活動を行っている満20歳以上の演奏家(学生不可)。
講 師 楠瀬寿賀子(音楽企画コーディネーター)、ヤッシー(ブラック・ボトム・プラス・バンド トロンボーン奏者)
応募締切 5月31日(火)必着
応募方法 応募用紙に必要事項を記入のうえ、1次審査用の音源と一緒に以下まで郵送または持参にてお申し込みください。
〒857-0863佐世保市三浦町2-3 アルカスSASEBO「音楽アウトリーチ事業」係

※募集要項および応募用紙はアルカスSASEBOで配布中のほか、ホームページからもダウンロードいただけます。
※詳しいスケジュールは募集要項を参照ください。ホームページにて音楽アウトリーチ事業の活動を紹介しています!



春



長崎県文化団体協議会副会長

小西 宗十



春はあけぼの。やうやうしろくなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

清少納言は、まず、光に春を見る。

石^{いは}ばしる垂水の上のさわらびの萌え出づる春になり^いけるかも

志貴皇子は、水のぬくもりに春を感じる。

そして、イタリアルネッサンスの画家ボッティチェリの絵画「プリマヴェーラ（春）」。咲き誇る花に誘われて踊る三美神。舞う女神たちの肌の暖かみが、薄絹を通して私たちに伝わってくる。

春、光とぬくもりの中で、生きとし生きるものがすべて、いのちに目覚める。虫は蠢動し、草木は芽吹き、鳥はさえずり、そして人もまた、自然の循環に合わせるように、心身に力がみなぎり、新しい一年に向けて生きる用意が整ってくる。

しかし、ここ三年、新型コロナの流行の波にのまれて、私たちは、春らしい生命の発動が頓挫せざるを得ないという体験を余儀なくされた。労働も楽しみも、社会的なものである。手を取りあつて行つて初めて達成感もあり、喜びもあるのだ。三密を避け、マスク越しにリモートで行わざるを得ない日常には、達成感も喜びも希薄だ。

ヨーロッパの中世は、十四世紀の飢餓と戦争とペストとによって、終末への道をたどった。二十一世紀の私たちもまた、貧困とパンデミックと戦争の影におびえている。ヨーロッパは当時の危機をルネッサンスによって乗り越え、近代化への展望を開いた。

現在、医学を中心に世界中で人々は新型コロナ克服のために懸命に戦っている。どうか来年の春こそは、大人も子供も、当たり前前に命を謳歌できることを、願わずにはられない。そうすれば、私たちの文化活動も、喜びに満ちた大輪の花を咲かせることができるだろう。

第49回 長崎県新人演奏会

令和4年6月19日(日) 14時 開演予定

〈場所〉アルカスSASEBO中ホール 〈入場料〉一般1,000円 高校生以下無料

藤本 翔大 (ヴァイオリン)	石村 奈瑠 (トランペット)	村畑 幸得 (クラリネット)	新貝 楓 (オーボエ)	赤崎 誠美 (チューバ)	富永果捺子 (ソプラノ)	田中明里子 (ソプラノ)	三浦 蓮月 (ピアノ)	小林 朱利 (ピアノ)
----------------	----------------	----------------	-------------	--------------	--------------	--------------	-------------	-------------

※オーディション出演順に掲載

編集後記

昨年度末に文化団体協議会のホームページを開設いたしました。皆様、ご覧いただいていますでしょうか。申請書等がダウンロードできるほか、加盟団体様がイベントのお知らせなどの情報を投稿できるシステムを導入しておりますので、ぜひご活用ください。

この春、事務局の書記が交代いたしました。前任者はスペインへ引越しますが、今後スペインの話題を寄稿してもらい、国際文化交流のひとつとして、楽しめるコーナーを作りたいなと思っています。加盟団体の皆様も、自分たちの団体の活動を紹介したい!という方がいらっしゃればぜひ事務局へご連絡ください。